

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる やや良くなる	スーパー（店長）	・他店との競争が落ち着いてくることで、商品単価が上昇することが見込まれる。
		コンビニ（エリア担当）	・7、8月は昨年の猛暑の反動で飲料水やアイスクリームなどの夏型商品が伸び悩み、全体の売上に影響したが、それを除けば安定してきた気配があり、今後も堅調に推移するとみられる。
		コンビニ（エリア担当）	・北海道新幹線の工事を含めて、工事関係者による需要が若干見込める。
		衣料品専門店（店長）	・現状では上向きとなるような要素は非常に少ないが、今年の夏の状況から判断すると、気温が低下し、本格的に冬を迎える頃には上向きになる。夏の傾向としては、客が商品を欲しいと思う、実売期といわれる時期には非常に売上が良く、客の様子としてもお金を出し惜しむというよりは、必要だから買いそろえるという感覚だったように見え、これらのことから3か月後は上向きになるはずである。
		家電量販店（地区統括部長）	・札幌市及び周辺地域の地上波デジタル放送の2006年開局を控えて、家電量販店が一斉に早期需要獲得に向けた取組を実施する。
		観光型ホテル（スタッフ）	・9、10月の予約状況は前年の同時期と比較して強含みで推移している。
		旅行代理店（従業員）	・知床の世界自然遺産への登録により、道内容の動きも活発になってきている。沖縄便も利用機材の大型化によって人員を伸ばしており、期待ができる。
	美容室（経営者）	・最近、近所の店で改装をするところが出てきており、商店街に元気な雰囲気は少しずつではあるが感じられる。	
	変わらない	商店街（代表者）	・財布の中身が増えない限り、景気が良くなるという実感はない。中心街でも屋台村がオープンして夜のにぎわいが創出されるが、大型店の集客は落ちている。
		商店街（代表者）	・秋冬物商材の最盛期ということで、今年のトレンドがはっきりしてきて防寒物が動けば、今よりアップするが、今のところ秋物商材の動きがみられないので、どちらとも言えない。
		一般小売店〔酒〕（経営者）	・ここ数か月の売上の動きをみると、一進一退の状態が続いており、特にこれから良くなるという期待も大きく低下するという不安もない。
		百貨店（売場主任）	・ウォームピズの関連で秋物商材の動きが少し助長される感じが見受けられる。紳士物、婦人物とも羽織物やベストなどの動きが期待される。
		百貨店（売場主任）	・今年度に入り、販売数量、平均買上金額とも減少している。今後も基本的な売上ベースでの販売量はすぐには回復しない。
		百貨店（役員）	・比較的好調を持続していた来客数や販売量も減少傾向にあり、客の購入態度も分かりにくく、今後も売上が低迷したままの状態が続く。
スーパー（店長）		・原油が高騰し続けており、これから需要期に入る北海道としては、非常に厳しい条件となりそうだ。	
スーパー（企画担当）	・原油の高騰がどのような影響するか分からない。		
コンビニ（エリア担当）	・現状では天候に恵まれ、農作物の収穫量が増加見込みとなっている。農家の収入が増えそうなので農業地帯に関しては景気が上向きになる可能性があるが、原油の高騰など、生活費の上昇も見込まれ、トータルすると景気はあまり変わらない。		
コンビニ（店長）	・非常に動きの良い商品とそうでない商品がかなりはっきりしてきている。好調に推移している商品については4、5年前の好調な時期と変わらない動きをしているものや、むしろ上回る動きをしているものもある。弁当などは売上の最盛期の半分と変わらないが、売れているものの動きが違ってきている。全体としてはプラスマイナスゼロで変わらないが、客の様子が変わってきている。		
家電量販店（店員）	・同業者には低価格で集客をしているところもある。一般の人は少しでも安い商品を探しており、景気はまだ良くはならない。		

	住関連専門店（経営者）	・商店街の店舗がまた一店舗閉店する。すぐに新しい店舗が出店すれば良いが、閉店したままの状態の店舗もあり、商店街全体としては非常に損失が大きい。	
	高級レストラン（スタッフ）	・今年も夏の暑さに助けられてカレーライスやビールが売れたが、閑散期に向かい、景気の良い本州客は減少していく。その上、不安定な道内企業のビジネスマンが高単価なレストランを利用してくれるとは考えにくいので、前年並みの売上を確保することは厳しい。	
	設計事務所（職員）	・北海道内の公共事業が停滞している。また自治体合併に伴う特例債を期待した新規投資についても、ここに来て財政内容の精査により、慎重姿勢となる様子が見られるなど、多くを期待できない状況が続いている。	
	住宅販売会社（従業員）	・住宅の増改築等は家屋の寿命がきているので増えているが、新築については相変わらず厳しい状況が続いている。	
やや悪くなる	百貨店（売場主任）	・9月の衆議院選挙の結果による影響も考える必要があるが、消費者マインドに原油価格高騰の影響が出始める。北海道の冬は長く、予想以上に影響が大きそうだ。	
	コンビニ（エリア担当）	・基幹産業の漁業は好調なものの、経費に含まれる軽油などの値上がりで基本的に利益が出ていないと聞いている。今後、経済を底上げする要因は何も見当たらず、景気が停滞することが懸念される。	
	衣料品専門店（店長）	・もう2～3か月すると北海道は寒くなるので、石油、ガソリンの値上がりの影響が心配される。	
	その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経営者）	・冬に向けて暖房用の灯油や重油の高値が懸念される。特に灯油については、1リットル当たりの価格が70円をはるかに超えることが予想され、家計を圧迫する。	
	観光型ホテル（経営者）	・世界自然遺産に登録された知床や旭山動物園の好調な旭川だけがにぎわうだけで、本州客、道内客はもとより、海外客も沈みがちである。我々も直接打撃を受けているが、重油の値上げの影響がじわじわと出てきている感じがする。衆議院選挙の影響も懸念される。	
	美容室（経営者）	・現在、灯油やガソリンなどの物価が上昇しているが、北海道はこれから寒い時期になり、灯油やガソリンなどの出費が増えるので、それに伴い人々の生活が苦しくなる。	
	悪くなる		
企業動向関連	良くなる	-	
	やや良くなる	家具製造業（経営者）	・全国的に景気が良くなりつつあり、高級品の動きが良くなっている。
		通信業（営業担当）	・客の動向をみると、下期に実施される新規案件がここ数年より増加している印象を受ける。
		その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	・北海道新幹線の工事着工や継続している高速道路の工事が本格的になり、期待が持てる。
	変わらない	金属製品製造業（経営者）	・鋼材の価格高騰が少し落ち着きをみせてきたかと思っただが、原油高の影響で先行きが不透明な状態である。秋になり受注が動くかとみられたが、原材料の調達に困難を極めており、今後どうなっていくか分からない状況である。
		輸送業（営業担当）	・原油高騰により紙パルプメーカーの生産調整が懸念されるが、農産物の出来が順調であることが期待される。
		金融業（企画担当）	・建設業は公共投資の削減で厳しさが続く。また原材料価格が値上がりしており、企業の収益を圧迫している。はっきり明るくなるといふ材料に乏しい。
		その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	・一向に商談が増加する気配が感じられない。
	やや悪くなる	輸送業（支店長）	・原油価格の上昇による燃料費のアップが、9～10月からフェリー運賃のアップという形で現れることが決定している。道内荷主にどれだけ転嫁できるかが問題だが困難が想定され、物流業界の収益悪化が見込まれる。また近海船の運賃マーケットが相変わらず高く、現在、配船数が減少している北海道向けのコンテナ船の配船数の回復は困難である。様々な場面で経済構造の希薄な道内経済に原油価格のアップがマイナス要因として表面化してくる。
	悪くなる		
	良くなる		
雇用関連	やや良くなる	求人情報誌製作会社（編集者）	・個人消費にかかわる小売業、飲食業の求人が好調である。今まで低調だったスナックの求人もプラスに転じていて、景気に支えられた求人増がしばらく続く。

	求人情報誌製作会社 (編集者)	・冬場を迎える前の人員確保の動きが発生する。道北最大級となる食品スーパーの開業も控え、若干の上向きが期待される。
	学校[大学](就職担当)	・今後も秋採用及び通年採用での採用が継続的に進む。
変わらない	人材派遣会社(社員)	・求人数は増加傾向で推移するが、求職側のニーズとのギャップがある。正社員の採用数が急激に増えるとは思えないが、その代替としてのパートや派遣は増えることが予想され、玉石混交といった状態がしばらく続き、全体としては変わらない。
	求人情報誌製作会社 (編集者)	・求人数は前年よりも増加しているが、その数字が少しずつ落ち着いてきている。
	職業安定所(職員)	・新規求人は増加傾向にあるが、増えているのは派遣、請負、パート求人であり、常用雇用を希望する求職者の雇用環境は厳しい状況のままである。
やや悪くなる	職業安定所(職員)	・求人数を支えていたパート求人が減少に転じている。
悪くなる	-	-